

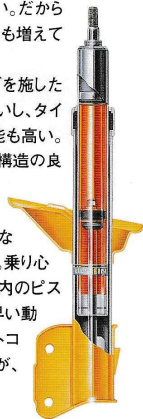
超 偏平タイヤを装着したGT-BとRS

スポーティなクルマには偏平タイヤを装着したい。しかし、偏平タイヤにはデメリットもあって、そう簡単には装着できない。もう一度タイヤ断面のイラストを参照してい



ただきたい。偏平なほど地面からの距離が少ない。だからショックの吸収力は小さく、地面から突き上げる力も増えてしまう。このデメリットを解決するのは大変だ。

ところが、SUBARUオリジナルのチューニングを施した超偏平タイヤを履いたGT-BとRS、乗り心地もいいし、タイヤも変な磨耗をしない。ウェットでのグリップ性能も高い。なぜなのか？答えは、LEGACYの生まれながらの構造の良さ+ビルシュタイン。水平対向縦置きエンジンのLEGACYは、もともとサスペンションのストロークが長い。しかもアームが長いから変化が少なく、動きやすい。そしてビルシュタインのダンパー。乗り心地に響くのはフリクション（揺動抵抗）。ダンパー内のピストン活動が、抵抗少なく緻密な動きをするから素早い動きに対応できるし、もちろん細かいゴツゴツもコトコトと軽い。つまりしなやかなサスペンションが、超偏平タイヤの装着を可能にした。



TTypeRとTXtypeSの“スポーティ”の主張

LEGACYのタイヤは、大きくはターボを搭載したGT-B、GT、RSとNA車の2つに分類される。NA車はさらに、エンジンパワー、重量など車種の特性によって、インチや偏平率、幅を少しずつ変化させている。2.0Lのグループを見て欲しい。TTypeRとTXtypeSはBrightonに比べ、1インチ大きく5%偏平なタイヤを履いている。ここにも“スポーティ”の主張が見える。

ごく普通の14インチタイヤを履いた、Brightonの実力

このMOOKの中でも何回か紹介しているが、運輸省と自動車事故対策センターが行った安全性能比較で、優秀な成績を残したLEGACY。使用されたのは、1.8LのLXと同じ14インチのホイールを履いたBrighton。時速100kmからの急ブレーキで、ドライ路面とウェット路面での制動距離差が最も少なかった。その絶対値も高いレベルだ。車種ごとにオリジナルのチューニングが施されているものの、サイズで見ればごく普通のタイヤを履いたBrightonでこの好成績。LEGACYの実力は、この1つの事実でも検証できる。

スポーティ=自由自在 それが、LEGACYのプレゼンテーション

ボクが定義するスポーティ・カーは、ドライバーが自分で描いたイメージ通りに操れるクルマのこと。その幅が広ければ広いほど、様々なテクニックにクルマが応えてくれるから、どんどん面白くなるし、飽きない。つまり奥が深い。

LEGACYはタイヤも含めて、車種ごとにSUBARUオリジナル・チューニングを施している。だから、乗り心地を犠牲にしないで、しかも重量と大きさを全然感じさせないくらいよく走る。自由自在という言葉がびつたりなクルマだ。レガシィの“5ナンバー”には訳がある。

日本のワゴンで代表するLEGACY。そのスポーティ=自由自在を存分に楽しめたかったら、セダンのRSがお勧めだ。箱根のワイドング・ロードをものすごくスムーズに、気持ちよく走る喜び。ぜひ、味わっていただきたい。



LEGACYには、1.8Lから2.0Lツインターボまでリーンバーンを除くと5種類のエンジンがあり、タイヤサイズは、14から17インチまで4種類が揃っている。ちなみに、まず車種とエンジン、タイヤの関係を一覧にしてみた。

TOURING WAGON

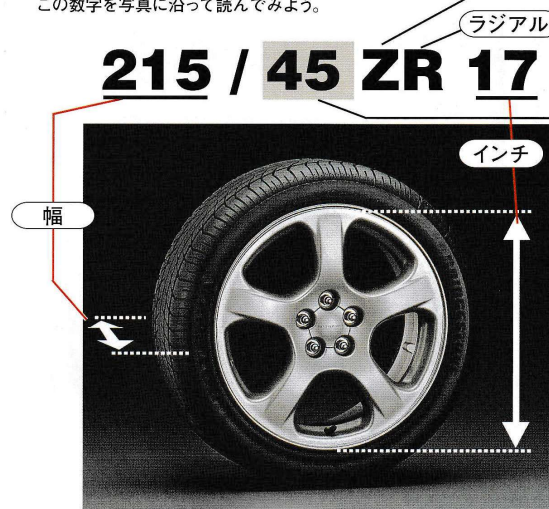
GT-B	GT	250T	250T-B	TTypeR	Brighton	TXtypeS	LX
2.0 4カム16バルブターボ	2.5 4カム16バルブ	2.5 4カム16バルブ	2.0 4カム16バルブ	2.0 4カム16バルブ	2.0 16バルブ	1.8 16バルブ	1.8 16バルブ
215/45ZR17	205/60R15 91H	195/60R15 88H	205/50R16 87V	195/60R15 88H	195/65R14 89H	195/60R15 88H	185/70R14 88S

TOURING SEDAN

RS	GT	250T	TTypeR	Brighton	TXtypeS	LX
2.0 4カム16バルブターボ	2.5 4カム16バルブ	2.5 4カム16バルブ	2.0 4カム16バルブ	2.0 16バルブ	1.8 16バルブ	1.8 16バルブ
215/45ZR17	205/60R15 91H	195/60R15 88H	195/60R15 88H	195/65R14 89H	195/60R15 88H	185/70R14 88S

まず、タイヤ・サイズを読む。

例えばGT-Bのタイヤ表示は、215/45ZR17。この数字を写真に沿って読んでみよう。



このZは、240km/h以上のスピードに耐えられるという速度保証=スピードレンジだ。他にV(240km/hまで)、H(210km/hまで)、S(180km/hまで)などがある。また、87や88という数字はロードインデックスでどれだけの荷重に耐えられるかという荷重指数のこと。

偏平率

偏平率は、イラストのようにタイヤ断面の高さと幅の比率で、この数値が低くなればなるほど偏平になっていく。また、左の写真のように真横から見た時に同じサイズでも、その幅によって偏平率は変わり、幅が広い方がより偏平となる。

偏 平タイヤがスポーティと呼ばれるわけ。

タイヤは基本的に接地面積が広いと荷重が増えた分だけリニアにグリップが増えていくから、カーブで外側のタイヤに荷重移動してもグリップの低下が少ない。また、断面形状が低ければ横から加わる力に対して倒れにくい。つまり偏平タイヤは、接地面積も広く横から加わる力にも強いという特徴がある。

従ってグニャッとならず、接地面積が確保でき、高荷重にも耐えられる。ハードな走りにも耐えられるというわけだ。偏平タイヤがスポーティ・カーに装着されるのは、そういう訳がある。

FIND OUT
THE
LEGACY

